

●薬品名

実施内容	超音波ガイド下トロンビン注入療法
対象患者	超音波検査もしくはCT検査にて穿刺部の仮性動脈瘤と診断された患者
承認日	2025年3月18日
実施期間	2025年4月1日から終了日未定
添付文書記載 (抜粋)	【効能又は効果】 通常の結紮によって止血困難な小血管、毛細血管及び実質臓器からの出血（例えば、外傷に伴う出血、手術中の出血、骨性出血、膀胱出血、抜歯後の出血、鼻出血及び上部消化管からの出血など） 【用法及び容量】 〈上部消化管出血以外〉通常、出血局所に本剤をそのまま噴霧もしくは灌注するか、又は撒布する。なお、出血の部位及び程度により適宜増減する。〈上部消化管出血〉適当な緩衝材で希釈した液（トロンビンとして200～400単位/mL）を経口投与する。なお、出血の部位及び程度により適宜増減する。
目的・概要	仮性動脈瘤は血管内治療(カテーテル治療)で動脈を穿刺した部位の合併症であり、穿刺部の痛みや腫れといった症状がおき、瘤からの出血、神経や静脈を圧迫することや、皮膚の壊死に至ることもあるため、何らかの治療が必要となります。これまでの一般的な手術は外科的手術でしたが、多くの場合に全身麻酔での手術が必要となり、創部感染やリンパ漏（特に鼠径部においてリンパ液の漏れが生じること）が懸念されました。「超音波ガイド下トロンビン注入」では局所麻酔での治療が可能で、皮膚切開は不要であり、治療時間も外科的手術と比較して短いため、有用です。
予想される 不利益と対策	動脈や静脈への誤注入、末梢塞栓症、アレルギー反応 超音波ガイド下穿刺の際、針先を常に超音波プロープで描出する。末梢塞栓症を早期に把握すべく、予め処置前に足背動脈ならびに後脛骨動脈を触診し、処置後にも同様に脈が触れることを確認する。重篤なアレルギー反応について、紅斑や膨疹、および咽頭違和感や呼吸苦の有無を確認して早期発見に努める。
問い合わせ先	東京慈恵会医科大学附属柏病院 検査治療を担当している診療科 TEL：04-7164-1111（代表）